

(2) 教員の経験年数のバランスはどうなっているか。

とれているか、とれていないか、その意見も答えてもらうことにする。

ウ 経験年数が両極端で、10～15年の者が少ない。

エ 経験年数が高い女子教員が多い。

オ 若手の経験の少ない者が多すぎる。

(上段人員、下段%)

経験年齢	小学校			中学校			高校		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
ア とれている	58	54	74	54	57	53	48	53	54
	41.4	38.6	52.9	69.2	73.1	67.9	56.5	62.4	63.5
イ とれていない	82	86	66	24	21	25	37	32	31
	58.6	61.4	47.1	30.8	26.9	32.1	43.5	37.6	36.5

とれているか、とれていないかについて、小学校では、とれていないが60%をしめ、中学校・高等学校では、とれているが70、または60%をしめている。このことは、経営上からみると、年齢構成の適・不適がただちに経験年数にあてはまるとは、うけとめられないようである。その意見をあげると次のようになる。

とれている。

小学校

ア 経験を生かし、意欲的である。

イ 論理性と経験による良識の面から適している。

ウ 小規模校の性格によるのか、立場を理解し、協力的である。

中学校

ア 11～15年の経験者が多い。

イ 6～15年の経験者が大多数である。

ウ 教員の学年配当にバランスがとれている。

高等学校

ア 経験年数10年以上の者が、過半数をしめていて教育活動が豊かである。

イ 11～15年の経験者が中心となっている。

とれていない

小学校

ア 若手の5～10年の経験者が少ない。

イ 経験年数がかたより、15、または20年以下の者が少ない。

中学校

ア 6～10年の経験者が少ない。

イ 11～20年の経験をもつ中堅層が少ない。

ウ 21～30年の経験者が不足している。

高等学校

ア 6年以下の経験者が多く、教育活動に配慮を要する。

イ 11～20年の経験者が少ない。

ウ 10年以下が多く、本校のみの勤務者が50%をしめている。

エ 経験年数10年以下、20年以上に集中し、15年代が少ない。

オ 中堅層の女子教員が少ない。

(3) 教員の専攻科目と担当(分担)はどうであるか。

円滑であると思われるか、思われぬか、また意見を答えてもらうことにする。

(上段人員、下段%)

教科運営	小学校			中学校			高校		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
ア 思われる	72	85	72	32	37	35	64	68	69
	51.4	60.7	51.4	41.0	47.4	44.9	75.3	80.0	81.2
イ 思われぬ	68	55	68	46	41	43	21	17	16
	48.6	39.3	48.6	59.0	52.6	55.1	24.7	20.0	18.8

円滑であるか、ないかについて、小学校では、ほぼ同率であり、中学校では、思われぬが60%をしめている。高等学校では、思われるが75%をしめている。その意見をあげると次のようになる。思われる。

小学校

ア 専攻科目がよく生かされている。

イ 特性がよく発揮できる体制にある。

ウ 専攻科目と研究分担が合っている。

エ 小規模校のためか、各人が分担責任を果たしている。

中学校